

PRIMERGY

B7FY-1381-01



取扱説明書

内蔵光磁気ディスクユニット

(PG-PD240B/PGBPD240B/PG-PD240BD/PGBPD240BD)

FUJITSU

はじめに

このたびは、弊社の PRIMERGY（プライマジー）内蔵光磁気ディスクユニット（PG-PD240B/PGBPD240B/PG-PD240BD/PGBPD240BD）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書は、本製品の取扱方法を説明しています。本製品を正しくお使いいただくため、必ずご覧になるようお願いいたします。

2004年5月

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解された上で本製品をお使いください。また本書は、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

本製品のハイセイフティ用途での使用について



本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。




本書の表記

■ 警告表示

本書ではいろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記
Microsoft® Windows Server™ 2003	Windows Server 2003
Microsoft® Windows® 2000 Server	Windows 2000 Server
Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0	Windows NT
Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition 4.0	
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0	
内蔵光磁気ディスクユニット (PG-PD240B/PGBPD240B/PG-PD240BD/PGBPD240BD)	ディスクユニット、 または本製品

安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

■ 本製品の取り扱いについて

⚠ 警告

窒息



- ・ 梱包に使用しているビニール袋はお子様が口に入れたり、かぶって遊んだりしないよう、ご注意ください。窒息の原因となります。

感電



- ・ 異物（水・金属片・液体など）が装置の内部に入った場合は、ただちに本体装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、担当営業員または担当保守員にご連絡ください。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

誤飲



- ・ 取り外したネジは、小さなお子様が誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

感電



- ・ 本装置をお客様自身で改造しないでください。感電・火災の原因となります。

本書の構成

この説明書は、次の4つの章で構成されています。目的に合わせてお読みください。

1 概要

ディスクユニットの概要として、特長や各部の名称と働きなどについて説明しています。

2 準備

ディスクユニットのドライブ番号の設定のしかた、サーバ本体への搭載のしかたなどについて説明しています。ディスクユニットを搭載する際に、お読みください。

3 使い方

ディスクユニットの電源の入れ方、ディスクの入れ方・取り出し方について説明しています。実際にお使いになるときに、お読みください。

4 取り扱いについて

ディスクユニットやディスクの、取り扱い上のご注意について説明しています。また、ディスクユニットのレンズとディスクのクリーニングについても説明しています。お使いになる前に必ずお読みください。

付録 A 主な仕様

ディスクユニットの主な仕様について説明しています。

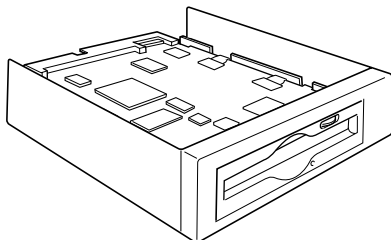
目次

1	概要	8
1.1	ディスクユニットについて	8
1.2	各部の名称と働き	9
2	準備	11
2.1	スイッチの初期状態	11
2.2	ドライブ番号の設定	12
2.3	動作モードの設定	12
2.4	サーバ本体への搭載	13
2.5	デバイスドライバについて	13
3	使い方	14
3.1	ディスクの入れ方	14
3.2	ディスクの取り出し方	15
4	取り扱いについて	16
4.1	ディスクユニットの取り扱い	16
4.2	ディスクの取り扱い	17
4.3	クリーニングについて	18
4.4	光磁気ディスクユーティリティについて	19
4.5	PRIMERGY S10 (バックアップキャビネット) 使用時の注意	25
	付録 A 主な仕様	29
	索引	30

梱包物の確認

お使いになる前に、次のものが梱包されていることをお確かめください。
万一足りないものがございましたら、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。

内蔵光磁気ディスクユニット



SCSI変換コネクタ (68pin-50pin)
PG-PD240BDには添付されません。
電源分岐ケーブル
取扱説明書 (本書)
保証書
SCSIケーブル (68pin-50pin)
PG-PD240BDにのみ添付されます。

重要

- ▶ 保証書に必要な事項が書かれているか、ご確認ください。お買い上げ時に正しく記載されていない場合は、保証書が無効となり無償保証を受けられないことがありますので、十分にご注意ください。記載内容が不十分でしたら、速やかに担当営業員にお問い合わせください。保証書は大切に保管しておいてください。

RINGOWIN は、富士通株式会社の商標です。
Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows NT、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2004

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の承諾を得ています。

1 概要

1.1 ディスクユニットについて

本製品は、以下の製品に内蔵される光磁気ディスクユニットです。

型名	対象製品と導入箇所
PG-PD240B/PGBPD240B	PRIMERGY シリーズの 5 インチベイ
PG-PD240BD/PGBPD240BD	PRIMERGY R450 または PRIMERGY RX300 のハードディスクベイ

1.1.1 特長

本製品には、次のような特長があります。

- ・ 光磁気記録方式により、何度でもデータの書き込み、消去ができます。
- ・ 直径 3.5 インチ (約 90mm) の光磁気ディスクに、約 1.3GB の大容量の情報が書き込めます (光磁気ディスクカートリッジ R13G 使用時)。これは、3.5 インチのフロッピーディスク (2HD) の約 1000 倍に相当します。
- ・ インタフェースに、SCSI (Small Computer System Interface) を採用しており、サーバ本体の内部 SCSI バスに接続します。
- ・ 高速スピンドルモータにより、最大約 6.70Mbyte/sec の高速データ転送速度を実現しています (光磁気ディスクカートリッジ R13G 使用時)。
- ・ 直進式ボイスコイルモータを使用したヘッド位置決め機構の採用により、平均シーク時間は 23msec と高速です。
- ・ 信頼性の高いエラー訂正機能の採用により、 10^{-12} のエラー率を実現しています。

1.1.2 使用できるディスク

本製品では、次の直径 3.5 インチの光磁気ディスクが使用できます。

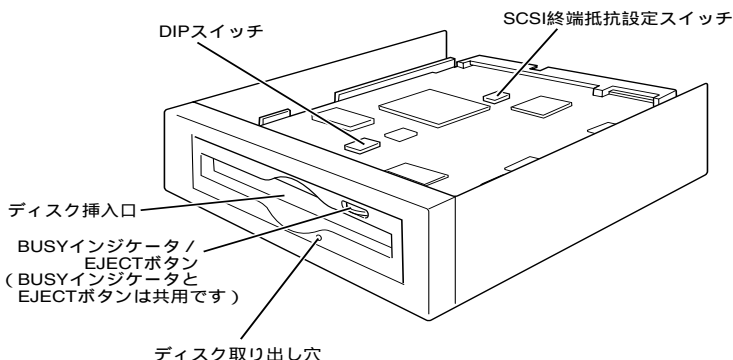
商品名	サプライ商品番号	総記録容量	備考
光磁気ディスクカートリッジ R128	0242110	128MB	
光磁気ディスクカートリッジ R230	0243210	230MB	
光磁気ディスクカートリッジ OW230	0243310	230MB	オーバライト方式
光磁気ディスクカートリッジ R540	0243410	538MB	
光磁気ディスクカートリッジ OW540	0243510	538MB	オーバライト方式
光磁気ディスクカートリッジ R640	0243610	643MB	
光磁気ディスクカートリッジ OW640	0243710	643MB	オーバライト方式
光磁気ディスクカートリッジ R13G	0243810	1.28GB	

POINT

- ▶ 総記録容量は 1MB = 1000 × 1000byte で換算しています。
- ▶ オーバライト方式の光磁気ディスクを使用した場合、一般の光磁気ディスクと同様の性能になります。

1.2 各部の名称と働き

■ 前面／上面



① ディスク挿入口

ここにディスクを入れます。ディスクの入れ方は、「3.1 ディスクの入れ方」(→ P.14)を参照してください。

② BUSY インジケータ / EJECT ボタン

・ BUSY インジケータの働き

ディスクのデータの読み取りや書き込みをしているときに、緑色に点灯します。また、ディスクユニット内が規定温度以上になると、読み書きの動作に関係なく約1秒ごとに点滅を繰り返します。

・ EJECT ボタンの働き

ディスクユニットに入っているディスクを取り出すときに押します。ただし、ソフトウェアによってディスクのイジェクト(取り出し)が禁止されている場合は、取り出すことができません。

③ ディスク取り出し穴

万一、ディスクが通常の方法で取り出せなくなったときは、この穴に、針金状のものを差し込むことにより、ディスクを取り出すことができます。詳細は、「3.2 ディスクの取り出し方」(→ P.15)を参照してください。

④ DIP スイッチ

ドライブ番号および動作モードを設定します。詳細は、「2 準備」(→ P.11)を参照してください。

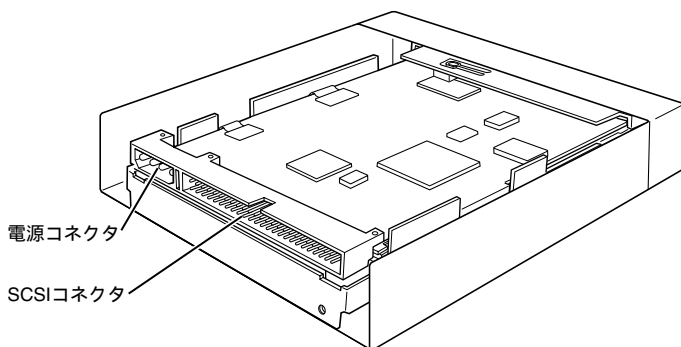
⑤ SCSI 終端抵抗設定スイッチ

ディスクユニット内部の終端抵抗を設定します。詳細は、「2 準備」(→ P.11)を参照してください。

POINT

- ▶ 上記の図は、PG-PD240B/PGBPD240B を基にしています。PG-PD240BD/PGBPD240BD の場合は、枠の形状が異なります。

■ 背面／上面



① 電源コネクタ

サーバ本体からの電源ケーブルを接続します。ケーブル長が足りない場合には、本製品に添付の電源分岐ケーブルを使用してください。

② SCSI コネクタ

サーバ本体からの内部 SCSI ケーブルを接続します。

- PG-PD240B/PGBPD240B の場合

添付の変換コネクタをディスクユニットに取り付け、SCSI ケーブルに接続してください。

- PG-PD240BD/PGBPD240B の場合

添付の SCSI ケーブルの 50 ピン側をディスクユニットに、68 ピン側をサーバ本体のベースポートまたは SCSI カードに接続してください。

2 準備

ディスクユニットのドライブ番号と動作モードを設定したあと、サーバ本体に搭載します。

→ 「2.2 ドライブ番号の設定」(P.12)

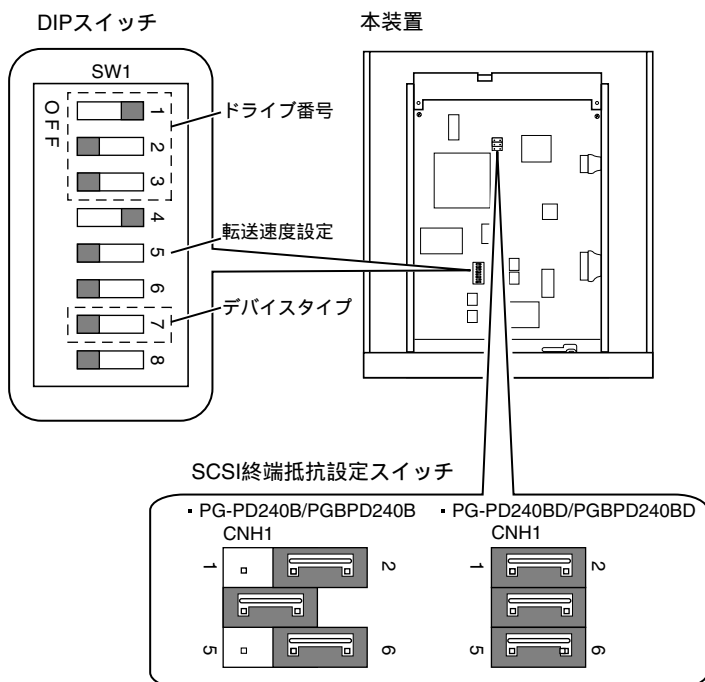
→ 「2.3 動作モードの設定」(P.12)

POINT

- ▶ サーバ本体およびソフトウェアの準備については、それぞれのマニュアルを参照してください。

2.1 スイッチの初期状態

DIPスイッチ (SW1) と SCSI 終端抵抗設定スイッチ (CNH1) のお買い上げ時の設定状態は、次のようになっています。



2.2 ドライブ番号の設定

ディスクユニットのドライブ番号を設定します。

お買い上げ時は、「# 4」に設定されていますので、上面にある DIP スイッチ (SW1) のスイッチ 1～3 を操作して、設定したいドライブ番号に合わせてください。

スイッチ設定状態とドライブ番号 (SCSI ID) との対応を、以下の表に示します。

ドライブ番号	スイッチ 1	スイッチ 2	スイッチ 3
#0	OFF	OFF	OFF
#1	OFF	OFF	ON
#2	OFF	ON	OFF
#3	OFF	ON	ON
#4	ON	OFF	OFF
#5	ON	OFF	ON
#6	ON	ON	OFF
#7	ON	ON	ON

注) #7 は設定禁止です。

POINT

- ▶ ドライブ番号が正しく設定されていないと、ディスクユニットが正常に動作しません。
- ▶ ドライブ番号は、#0～#6 の範囲で他の SCSI 機器と重ならないように設定してください。

2.3 動作モードの設定

上面の DIP スイッチ (SW1) で、ディスクユニットの動作モードを設定します。

ドライブ番号およびデバイスタイプの指定以外の DIP スイッチは、お買い上げ時の設定を変更しないでお使いください。

スイッチ	設定内容	お買い上げ時の設定
5	転送速度を指定します。 ON : 非同期設定 OFF : 同期転送設定 (10MB/sec)	OFF
7	デバイスタイプを指定します。 ON : デバイスタイプ=0 (ダイレクトアクセス装置) OFF : デバイスタイプ=7 (光メモリ装置)	OFF

2.4 サーバ本体への搭載

搭載の前に、サーバ本体の電源を必ず切ってください。搭載方法は、サーバ本体に添付のマニュアルを参照してください。

POINT

- ▶ サーバ本体に添付のマニュアルに、本ディスクユニットの型名の記載がない場合は、以下の型名として扱ってください。
 - ・ PG-PD240B/PGBPD240B の場合
PG-PD240/PGBPD240/PG-PD239/ PGBPD239
 - ・ PG-PD240BD/PGBPD240BD の場合
PG-PD239D/PGBPD239D

2.5 デバイスドライバについて

デバイスドライバは、ServerStart CD-ROM 内の光磁気ディスク・ユーティリティをインストールすることによって設定されます。以下の手順でインストールしてください。

- 1 Administrator 権限で、ログオンします。
- 2 サーバ本体に添付の ServerStart の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットし、以下のファイルを実行します。

■ Windows Server 2003 の場合

「MO Supplement」をインストールします。(必須)

```
[CD-ROM ドライブ] :%DRIVERS%MODRIVE%W2K3%MO Supplement v600%MOSUPPLE.MSI
```

「MO Utility」をインストールします。(インストール推奨)

```
[CD-ROM ドライブ] :DRIVERS%MODRIVE%W2K3%MO Utility v600%MOUTY.MSI
```

■ Windows 2000 Server の場合

「MO Utility」をインストールします。(必須)

```
[CD-ROM ドライブ] :%DRIVERS%MODRIVE%W2K%MOFORMAT.MSI
```

■ Windows NT の場合

「MO Utility」をインストールします。(必須)

```
[CD-ROM ドライブ] :%DRIVERS%MODRIVE%NT4%SETUP.EXE
```

詳細は、「4.4 光磁気ディスクユーティリティについて」(→ P.19) を参照してください。

POINT

- ▶ ServerStart V5.307 以前の版数には、Windows Server 2003 用の光磁気ディスク・ユーティリティが格納されていません。富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET の PRIMERGY 向けホームページ (<http://www.fmworld.net/biz/primergy/>) よりダウンロードしてください。

- ▶ Windows Server 2003 および Windows 2000 Server の場合は、OS 標準のドライバで動作しますが、本ユーティリティソフトをインストールすることにより、本製品の特性に合せた調整が自動的に行われます。

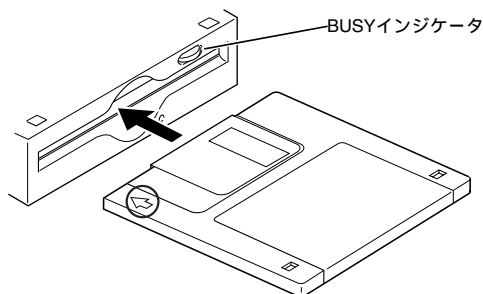
3 使い方

3.1 ディスクの入れ方

1 サーバ本体を起動します。

起動方法は、サーバ本体に添付のマニュアルを参照してください。

2 矢印の付いた面を上にして、ディスクをディスク挿入口に差し込みます。



3 ソフトウェアを使って、ディスク上のデータの読み取りや書き込みをします。

読み取り中や書き込み中は、BUSY インジケータが点灯します。

POINT

- ▶ 本製品にディスクを入れて、ディスクがロードされるときにも BUSY インジケータが点灯します。この場合、R13G ディスク使用時は約 12 秒間点灯し、R13G 以外のディスク使用時（約 8 秒間）よりも長く点灯しますが、これは故障ではありません。
- ▶ 本製品はパワーセーブ機能をもっており、約 30 分間アクセスがない場合、ディスクの回転を停止させています。そのため、その後の最初のアクセスに対しては、ディスクの回転立ち上げ（R13G 以外のディスク使用時約 8 秒、R13G のディスク使用時約 12 秒）のために、応答までの時間が長くなります。

3.2 ディスクの取り出し方

ディスクは以下のどちらかの方法で取り出すことができます。

方法1	Windows 上でドライブアイコンを右クリックし、表示されるメニューの「取り出し」を実行します。
方法2	ディスクユニットの前面にある EJECT ボタンを押します。

Windows 起動状態でディスクを取り出すときは、トラブルを避けるためにも「方法1」で取り出すことをお勧めします。

POINT

- ▶ ディスクのデータの読み取り、書き込みにより BUSY インジケータが点灯している間は、ディスクを取り出さないでください。点灯している間に取り出すと、データが正しく書き込まれなかったり、ディスクのデータが消えてしまったりすることがあります。
- ▶ 本製品を固定ディスクとして使用する場合は、サーバ本体の操作中はディスクを取り出さないでください。サーバ本体の操作中にディスクを取り出すと、データが正しく書き込まれなかったり、ディスクのデータが消えてしまったりすることがあります。
- ▶ 本製品はディスク取り出し時、ディスクを先端から約2cm 引き出した位置で、引き出す力が強く必要になることがあります。これはディスクイジェクト動作時に、ディスクが本製品から飛び出してしまおうを防ぐための動作であり、故障ではありません。

■ ディスクが取り出せない場合は

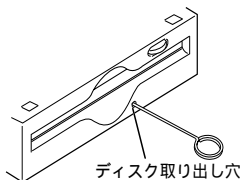
次のような場合は、EJECT ボタンを押してもディスクが取り出せないことがあります。

- ・ ソフトウェアでディスクのイジェクトが無効に設定されているとき
- ・ 本製品が故障したとき
- ・ サーバ本体にトラブルが生じたとき
- ・ 停電などで本製品の電源が入らないとき

この場合は、次のようにしてディスクを取り出します。

1 サーバ本体の電源を切ります。

2 直径 1.2mm 以下の針金（例えば、ゼムクリップをまっすぐ伸ばしたものなど）を、ディスク取り出し穴にまっすぐに差し込みます。



⚠ 注意



- ・ 針金を使用する際は、指先を傷つけないように注意してください。

4 取り扱いについて

4.1 ディスクユニットの取り扱い

4.1.1 万一の故障を防ぐために

■ 衝撃・振動を与えないでください

落とすなど強い衝撃を与えると、故障することがあります。

■ 設置場所

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・湿気の多い所や乾燥している場所
- ・ほこりの多い場所
- ・極度に高温や低温な場所
- ・激しい振動のある場所
- ・直射日光の当たる場所
- ・不安定な場所
- ・温度変化の激しい場所

また、保管する場合は、DIP スイッチのある面を上に向けてください。

■ 風通し

ディスクユニット内部の温度上昇を防ぐため、動作中に布などで包んだり、空気の流れの悪いところに置かないでください。ディスクユニット内部が高温になると、動作しなくなる場合があります。

■ 急激な温度変化は避けてください

寒いところから暖かいところに移したり、室温を急に上げたりしたときは、ディスクユニット内部に結露が起こる場合があります。急激な温度変化があった直後は使わずに、1時間以上待ってからお使いください。結露が起きたままディスクを入れると、ディスクユニットやディスクが損傷することがあります。結露が起きている可能性がある場合は、すぐにディスクを取り出してください。

■ ディスクを入れたまま移動しないでください

使わない場合は、ディスクを必ず取り出しておいてください。ディスクを入れたまま、サーバ本体を持ち運んだりしないでください。

また、使用中は、ディスクが高速で回転しています。このとき、ディスクユニットを動かすと動作が不安定になったり、ディスクを傷つけたりするおそれがあります。ディスクを取り出してから、移動してください。

■ 異常がおきたら

万一、異常や不具合が生じた場合は、サーバ本体の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、担当営業員または担当保守員にご相談ください。

4.1.2 その他ご注意いただきたいこと

■ 雑音電波について

ディスクユニットは高周波の信号を扱うため、ラジオやテレビ、オーディオチューナなどに雑音が入ることがあります。この場合は、距離を少し離してご使用ください。

■ 前面パネルが汚れたら

前面パネルの汚れは、乾いた柔らかい布で拭きとってください。汚れがひどい場合は、うすい中性洗剤溶液を少し含ませた布でふきとり、乾いた布で乾拭きしてください。アルコール・シンナー・殺虫剤など、揮発性の溶剤は使用しないでください。表面の仕上げを傷めたり、表示が消える場合があります。

4.2 ディスクの取り扱い

4.2.1 取り扱い上のご注意

- ・他のソフトウェアでフォーマットしたスーパーフロッピー形式のディスクには、Windows NT ではご使用できないものがあります。
(例：「3.5 インチ光磁気ディスク互換媒体ドライブ」でフォーマットしたもの、およびRINGOWIN や SCIS カードの添付ユーティリティ (AFDISK.EXE) でフォーマットした後に MS-DOS の FORMAT コマンドでフォーマットしていないものなど)
- ・ディスクに激しい振動を与えたり、落としたりしないでください。
- ・ディスクは、工場出荷時に精密に調整されていますので、分解しないでください。
- ・ディスクは、ディスクユニットに挿入すると自動的にシャッターが開く、自動装填式です。ディスクのシャッターを手で開けて、内部に触れないでください。
- ・温度差の激しい所や湿気の多い所では使わないでください。結露が起こって、データの書き込みや読み取りができなくなる場合があります。
- ・必要以上に、ディスクをディスクユニットに出し入れしないでください。
- ・ディスクのラベルは、端がはがれないように貼ってください。また、ラベルを重ねて貼らないでください。ディスクユニットから取り出せなくなる原因になります。
- ・使い終わったら、必ずディスクユニットからディスクを取り出しておいてください。また、持ち運ぶときには必ずケースに入れてください。

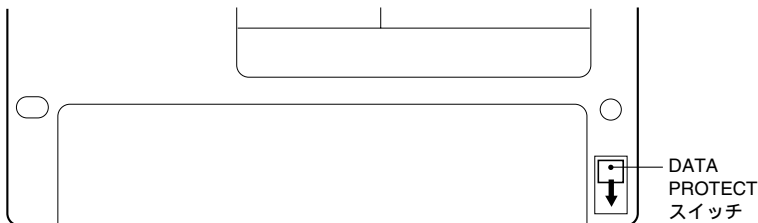
■ ディスクの保管について

- ・ディスクは、ケースに入れて保管してください。
- ・自動車のダッシュボードやトレーは高温になることがありますので、ディスクを絶対に放置しないでください。
- ・次のような場所に保管しないでください。
 - ほこりやちりの多い場所
 - 直射日光の当たる場所
 - 暖房器具に近い場所
 - 湿気の多い場所

4.2.2 ディスクのデータを守るために

ディスクには、ディスクのデータを誤って消したり不要なデータを書き込んだりするのを防ぐための、DATA PROTECT スイッチ（黒いつまみ）が付いています。このスイッチを矢印の方向（下）にスライドさせておくとディスクのデータを読み出すことはできませんが、書き込むことができなくなります。スイッチを元に戻すと、再び書き込むことができますようになります。

書き込む必要のないディスクは、スイッチを矢印方向にスライドさせておいてください。



4.3 クリーニングについて

POINT

- ▶ レンズおよびディスクのクリーニングを定期的に行ってください。データを正常に読み書きできなくなることがあります。

4.3.1 レンズのクリーニング

このディスクユニットは、データの書き込みや読み取りをするために、光学レンズを使用しています。レンズがほこりやごみなどで汚れていると、正常なデータの書き込みや読み取りができない場合があります。このようなことを防ぐために、ヘッドクリーナで定期的にクリーニングを行う必要があります。ディスクユニットの性能を維持するために、1か月に1度はクリーニングを行ってください。

■ 使用できるヘッドクリーナ

光磁気ディスククリーニングカートリッジ（サブライ商品番号：0240470）（別売）をお使いください。クリーニングのしかたは、クリーニングカートリッジの使用説明を参照してください。

4.3.2 ディスクのクリーニング

ディスクを長い間使用すると、ディスク上にほこりや汚れが付着し、データを正常に読み書きできなくなる場合があります。このようなことを防ぐために、ディスククリーニングキットでクリーニングを行う必要があります。

ディスクの性能を維持するために、3か月に1度はクリーニングを行ってください。

■ 使用できるクリーニングキット

光ディスククリーニングキット（サブライ商品番号：0632440）（別売）をお使いください。クリーニングのしかたは、クリーニングキットに添付のマニュアルを参照してください。

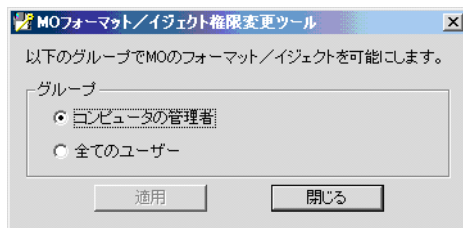
4.4 光磁気ディスクユーティリティについて

本ディスクユニットを使用するうえで、有効なソフトウェア（光磁気ディスクユーティリティ）を ServerStart CD-ROM に格納しています。ソフトウェアは OS ごとに、異なりますので、ご使用になる OS に応じてインストールしてください。

OS	ソフト名	主な機能	備考
Windows Server 2003	MO Supplement	<ul style="list-style-type: none">ドライブ設定 デバイスドライバの設定をします。（インストール時に自動で実施）	<ul style="list-style-type: none">OS の機能でディスクをフォーマットできます。「ローカルセキュリティポリシー」機能で、「フォーマット/イジェクト権限変更ツール」と同様の設定ができます。
	MO Utility	<ul style="list-style-type: none">フォーマット/イジェクト権限変更ツール Administrator 以外のユーザ権限でも、光磁気ディスクのフォーマットやイジェクトを行えるように設定できます。 →「4.4.1 フォーマット/イジェクト権限変更ツールについて」（P.20）	
Windows 2000 Server	MO Utility	<ul style="list-style-type: none">ドライブ設定 デバイスドライバの設定をします。（インストール時に自動で実施）MO ディスクフォーマット 光磁気ディスクのフォーマットを行うことができます。 →「4.4.2 MO ディスクフォーマットについて」（P.21）フォーマット/イジェクト権限変更ツール Administrator 以外のユーザ権限でも、光磁気ディスクのフォーマットやイジェクトを行えるように設定できます。 →「4.4.1 フォーマット/イジェクト権限変更ツールについて」（P.20）	<ul style="list-style-type: none">OS 機能でもディスクをフォーマットできますが、「MO Utility」では多様なフォーマット形式に対応しています。「ローカルセキュリティポリシー」機能で、「フォーマット/イジェクト権限変更ツール」と同様の設定ができます。
Windows NT	MO Utility	<ul style="list-style-type: none">ドライブ設定 デバイスドライバをインストールします。MO ディスクフォーマット 光磁気ディスクのフォーマットを行うことができます。 →「4.4.2 MO ディスクフォーマットについて」（P.21）	Administrator 以外のユーザ権限でも、ディスクのフォーマットやイジェクトが行えます。

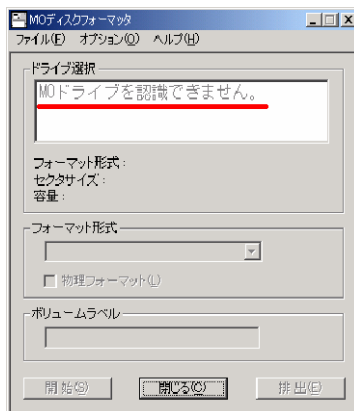
4.4.1 フォーマット/イジェクト権限変更ツールについて

Windows Server 2003 および Windows 2000 Server の「MO Utilities」では、フォーマット/イジェクト権限変更ツールを使用して、ディスクユニットへのフォーマット/イジェクトを「コンピュータの管理者 (Administrator メンバ)」の権限とするか、「全てのユーザ」に権限を解放するかを選択することができます (初期値は、「コンピュータの管理者 (Administrator メンバ)」となっています)。



POINT

- ▶ フォーマット/イジェクト権限が、「コンピュータの管理者 (Administrator メンバ)」と設定されているときに、ユーザ権限のユーザ名でログオンして、「MO ディスクフォーマッタ」を起動すると、以下のメッセージが表示されます。この場合は、Administrator 権限のユーザ (サーバ本体管理者) にフォーマット/イジェクト権限を確認し、権限のあるユーザ名でログオンし直して、「MO ディスクフォーマッタ」を起動してください。



- ▶ フォーマット/イジェクト権限を確認し、権限のあるユーザ名でログオンしても同様の表示が出る場合は、本製品の接続を確認してください。

4.4.2 MO ディスクフォーマットについて

フォーマットには、「物理フォーマット」と「論理フォーマット」があります。

■ 物理フォーマット

OSにはかかわらず物理的に読み書きができるようにします。また、読み書きできなくなった部分を、あらかじめ再起動してある正常な部分と置き換え（交替処理）も行います。市販されている光磁気ディスクは、この物理フォーマット処理が済んでいます。

■ 論理フォーマット

物理フォーマットが済んでいる光磁気ディスクに対して、OSが使用する管理用データや実際に記録されるデータの論理的な位置を設定します。通常、「フォーマット」と呼ぶ場合は、こちらを指します。

「MO ディスクフォーマッタ」では、以下の3つの操作を選択できます。用途に合わせて選択してください。

■ クイックフォーマット（ベリファイなしの論理フォーマット）[推奨]：

指定されたフォーマット形式に、光磁気ディスクの管理用データを書き換え、データ格納情報を初期化します。

■ 論理フォーマット（ベリファイ有りの論理フォーマット）：

指定されたフォーマット形式に、光磁気ディスクの管理用データを書き換え、データ格納情報初期化、データのベリファイを行います。

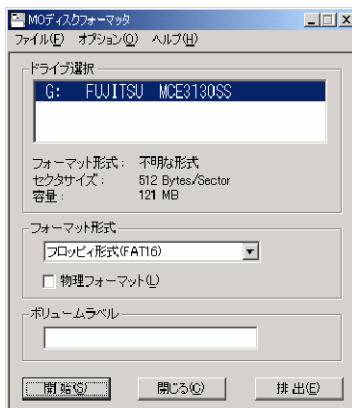
■ 物理フォーマット：

市販されている光磁気ディスクは、すでに物理フォーマットの処理が済んでいますので、通常実施する必要はありません。

POINT

- ▶ 光磁気ディスクでエラーが多発する場合に使用してください。なお、物理フォーマットを実施しても正常に戻らなかった光磁気ディスクは、以後使用しないでください。

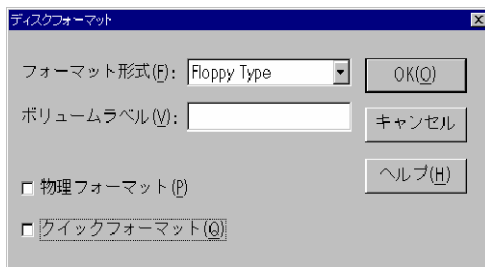
Windows 2000 Server の以下の画面で、「MO ディスクフォーマッタ」の場合、以下の画面で物理フォーマットをチェックしないでフォーマットを行うと、クイックフォーマットが行われます。



POINT

- ▶ MCE3130SS などのドライブの名称は、各装置によって異なります。

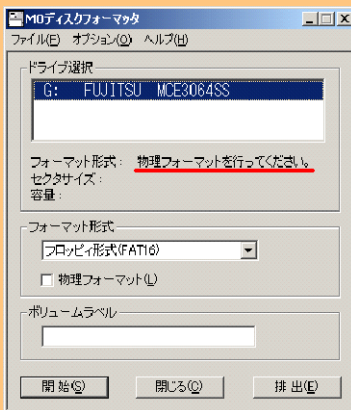
Windows NT の「MO ディスクフォーマッタ」の場合、以下の画面で、クイックフォーマットにチェックするとクイックフォーマットが行われ、物理フォーマットもクイックフォーマットもチェックしないでフォーマットを行うと、論理フォーマットが行われま



- ・「MO ディスクフォーマット」などを用いると、光磁気ディスクに対して物理フォーマットを行うことができます。物理フォーマットは、光磁気ディスクを完全に初期化しますので、何らかの原因でフォーマットが失敗した場合で、物理フォーマットされていない状態になったディスクに対してだけ行ってください。

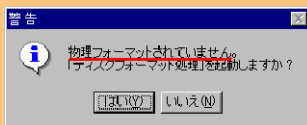
光磁気ディスクに物理フォーマットが必要な場合は、以下のメッセージが表示されます。

- Windows 2000 Server の場合



(MCE3064SS などのドライブの名称は、各装置によって異なります。)

- Windows NT の場合



LDSM、Servervisor などの監視ソフト動作中に物理フォーマットを行うと、以下のメッセージが表示され、イベントログに同様の内容でロギング情報が残ることがありますが異常ではありません。物理フォーマットが終了すると、自動的に復旧します。

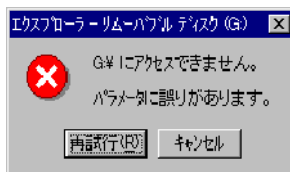


POINT

- ▶ Windows NT 環境で使用する場合、スーパーフロッピー形式の 1.3GB および 640MB のディスクに対して、以下の方法でフォーマットしないでください。Windows NT では使用できなくなります。
 - ・マイコンピュータのドライブアイコンを右クリックし、「フォーマット」を選択する。万一間違えて、上記操作をしてしまった場合は、本デバイスドライバのフォーマッタの機能を使用して再度フォーマットしてください。
- ▶ エクスプローラでディスクユニットにアクセスした状態で、本デバイスドライバの「MO フォーマッタ」を起動し、ディスクユニットを選択した場合、「このドライブはロックできないため、排他的に使用することはできません。別のアプリケーションがドライブにアクセスしていないか確認してください」と表示される場合があります。このような場合は、エクスプローラでのディスクユニットアクセスを解除してご使用ください。
- ▶ 本デバイスドライバの「MO フォーマッタ」でディスクユニットを選択した状態で、ファイルマネージャでディスクユニットにアクセスすると、「x: : ¥にアクセスできません。……」と表示される場合があります。このような場合は、「MO フォーマッタ」でディスクユニットを選択した状態を解除してご使用ください。
- ▶ Windows NT で、エクスプローラでの右クリック画面で媒体取り出し指示をした場合、「リムーバブルディスク (x) をマウントするときに、エラーが発生しました。そのボリュームのファイルまたはウィンドウを開いていないか確認してください」と表示され、媒体が排出されない場合があります。このような場合は、マイコンピュータでの右クリック画面で媒体取り出し指示をしてください。

4.4.3 フォーマット中のシャットダウン、OS 再起動について

「MO ディスクフォーマット」中に、シャットダウンまたは OS 再起動を行うと、光磁気ディスクの内容が破壊されることがありますので、絶対に行わないでください。光磁気ディスクにアクセスしたときに、以下のメッセージが表示される場合は、光磁気ディスクの内容が破壊されている可能性がありますので、再度フォーマットしてください。



4.5 PRIMERGY S10（バックアップキャビネット） 使用時の注意

PRIMERGY S10 を使用して、サーバ本体にディスクユニットを接続する場合、不具合が生じる可能性がありますので、次の方法に従い、設定を変更してください。

4.5.1 設定変更項目

光磁気ディスクの SCSI ID に対して、同期転送を行わないように、以下の表記載された値に設定変更してください。

設定方法については、サーバ本体に添付の『取扱説明書』を参照してください。

取扱説明書のどの部分に書かれているかは、以下の表の対応するサーバ名の「取扱説明書確認部分」欄を参照してください（なお、取扱説明書に、「変更禁止」と記載されている場合もありますが、設定変更してください）。

- ・ オンボード SCSI コントローラ ～ S10 接続時

サーバ名	取扱説明書確認部分	設定値		備考
		変更前 (Default)	変更後	
PRIMERGY N400	4章 セットアップ └ SCSI Select ユーティリティを使う └ Configure/View Host Adapter Setting メニューの詳細 └ SCSI Device Configuration └ ○ Sync Transfer Rate(MB/Sec)	160	ASYN	
PRIMERGY N800	4章 セットアップ └ SCSI コンフィグレーションユーティ リティを使う └ Utility メニューの詳細 └ Device Selections └ ○ Sync Rate(MBytes/sec)	80	Off	出荷時期に よって、設定 方法が異なり ますので、 サーバに添付 の取扱説明書 の記載内容 (左記どちら か) に従っ て、設定変更 してください。
	4章 セットアップ └ SCSI コンフィグレーションユーティ リティを使う └ Fast!UTIL Options メニューの詳細 └ SCSI Device Settings └ ○ Negotiate Sync	Yes	No	

- ・ SCSI カード ～ S10 接続時

SCSI カード	設定変更方法	設定値	
		変更前 (Default)	変更後
PG-126/PG-128 PG-130L	「4.5.2 設定変更方法」(→ P.26) を参照してください。	160	ASYN

- ・ ディスクユニットの表示

設定変更画面では、ディスクユニットは、次のように表示されます。ディスクユニットが接続されている SCSI ID を確認する際の目安としてください。

装置型名	設定画面での表示
PG-PD240B/PGBPD240B	Fujitsu MCP3130SS
PG-PD240BD/PGBPD240BD	

4.5.2 設定変更方法

⚠ 注意



- ・ 画面表示例は、PG-128 (SCSI カード) の BIOS 版数によって多少異なる場合があります。他の SCSI カード (PG-126、PG-130L) についても、操作はほぼ同様です。

1 サーバ起動時 (POST 実行中)、以下の画面が表示されている間に、【Ctrl】 + 【A】 キーを押します。

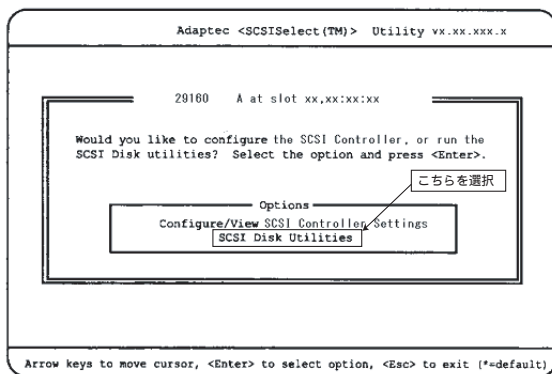
SCSI Select ユーティリティのメインメニュー画面が表示されます。

```
Adaptec SCSI BIOS vX.XX.XXX.X
(c) 2000 Adaptec, Inc. All Rights Reserved.
<<< Press <Ctrl><A> for SCSISelect(TM)Utility >>>
```

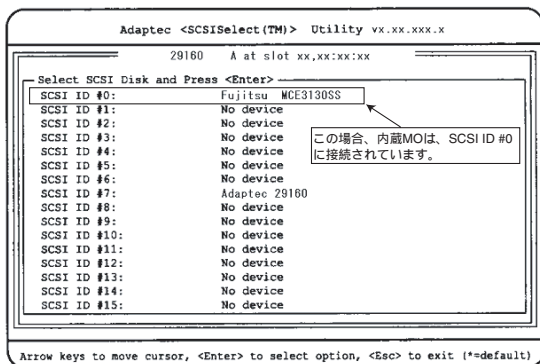
次の画面が表示される場合は、【Enter】キーを押して、SCSI Select ユーティリティのメインメニューに移動してください。

```
Adaptec < SCSISelect(TM) >Utility vX.XX.XXX.X
29160 A at slot xx,xx:xx:xx
```

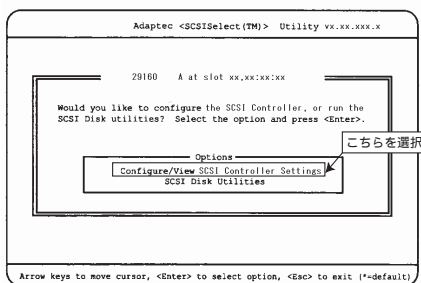
2 「SCSI Select ユーティリティ」メインメニュー→「Options」→「SCSI Disk Utilities」の順に選択し、【Enter】キーを押します。



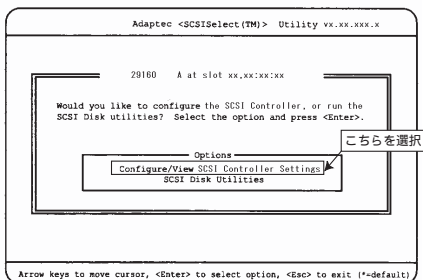
- 3 ディスクユニットが接続されている SCSI ID を確認し、【Esc】キーを押します。



- 4 「SCSI Select ユーティリティ」メインメニュー→「Options」→「Configure/View SCSI Controller Settings」の順に選択し、【Enter】キーを押します。

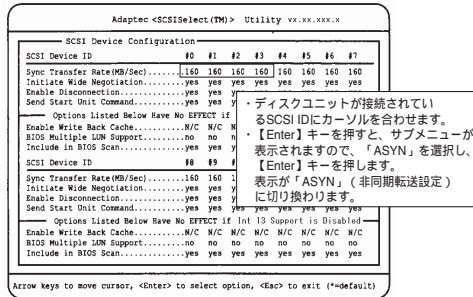


- 5 「SCSI Device Configuration」を選択し、【Enter】キーを押します。
「SCSI Select ユーティリティ」のサブメニューが表示されます。



6 接続されているディスクユニットに対する「Sync Transfer Rate(MB/Sec)」の値を変更します。

- ・「Sync Transfer Rate(MB/Sec)」のディスクユニットが接続されている SCSI ID を選択し、【Enter】キーを押します。
- ・サブメニューが表示され、ディスクユニットに対する転送速度が選択可能となりますので、「ASYN」にカーソルを合わせて、【Enter】キーを押します。これで、選択した部分が、「ASYN」（非同期転送設定）に切り換わります。



7 【Esc】キーを2回押します。

変更した設定を保存するかどうかのメッセージ画面（[Save Changes Mode?]）が表示されます。

8 設定を保存して SCSI Select ユーティリティのメインメニューに戻る場合は、[Yes] を選択、保存しないで戻る場合は、[No] を選択し、【Enter】キーを押します。

9 SCSI Select ユーティリティのメインメニュー画面で、【Esc】キーを押します。

SCSI Select ユーティリティを終了するかどうかのメッセージ画面（[Exit Utility?]）が表示されます（別画面になる場合は、もう一度【Esc】キーを押します）。

10 終了する場合は、[Yes] を選択し、【Enter】キーを押します。

再起動する通知メッセージ「Please press any key to reboot」が表示されます。

11 どれかキーを押します。

「Boot Menu」が表示される場合は、正しいブートデバイスにカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

システムが再起動し、設定作業は終了です。

付録 A 主な仕様

■ 性能

総記録容量（ユーザ領域） ^(*)	128MB（127MB） 230MB（228MB） 538MB（533MB） 643MB（635MB） 1.28GB（1.24GB）
セクタ容量	512 bytes（R640、OW640、R13G 以外） 2048 bytes（R640、OW640、R13G）
回転数	5455rpm（R13G 以外） 3637rpm（R13G）
平均回転待ち時間	5.5msec（R13G 以外） 8.2msec（R13G）
平均シーク時間（回転待ち、SCSI オーバーヘッドを含みません）	23msec
データ転送速度 連続ライト（実効） 連続リード（実効）	6.70MB/sec（最大、1.3GB ディスク時） 0.99～1.70MB/sec（1.3GB ディスク時） 2.98～5.09MB/sec（1.3GB ディスク時）
ロード時間	8sec（平均、R13G 以外） 12sec（平均、R13G）
アンロード時間	4sec（平均）
ホストインタフェース	SCSI（Small Computer System Interface）-2

^{*}）1MB = 1000 × 1000byte で換算しています。

■ 電源・その他

電源	DC + 5V
消費電力	6.1W
最大外形寸法（突起部を含まず） （幅×高さ×奥行き）	・ PG-PD240B/PGBPD240B の場合 148 × 43 × 162 mm（5 インチベイ 1 段使用） ・ PG-PD240BD/PGBPD240BD の場合 122.5 × 53.4 × 182mm（ハードディスクベイ 2 段使用）
質量（媒体を含まず）	・ PG-PD240B/PGBPD240B 約 1.0kg ・ PG-PD240BD/PGBPD240BD 約 1.1kg

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

索引

行

イジェクト.....	9
オーバーライト方式.....	8

か行

クリーニングカートリッジ.....	18
クリーニングキット.....	18

さ行

終端抵抗.....	11
スーパーフロッピー形式.....	17
総記録容量.....	8, 29

た行

ダイレクトアクセス装置.....	12
デバイスタイプ.....	12
ドライブ番号.....	11, 12

は行

パワーセーブ機能.....	14
光メモリ装置.....	12
ヘッドクリーナ.....	18

D

DATA PROTECT スイッチ.....	18
------------------------	----

E

EJECT ボタン.....	9, 15
----------------	-------

PRIMERGY

**内蔵光磁気ディスクユニット
(PG-PD240B/PGBPD240B/PG-PD240BD/PGBPD240BD)
取扱説明書**

B7FY-1381-01-00

**発行日 2004年5月
発行責任 富士通株式会社**

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

FUJITSU



古紙配合率100%再生紙を使用しています。



大豆インキで印刷しています。

このマニュアルはリサイクルに配慮して製本されています。
不要になった際は、回収・リサイクルに出してください。



* B 7 F Y 1 3 8 1 0 1 *